

第1回北九州市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事概要

日 時 平成27年2月17日(火) 9時00分～11時00分

場 所 ホテルクラウンパレス小倉 2階 香梅の間

出席者(構成員)

岡田 知子 (西日本工業大学教授)
籠田 淳子 (有限会社ゼムケンサービス 代表取締役)
佐藤 竜司 (i6コンサルティンググループ株式会社 代表取締役)
勢一 智子 (西南学院大学 教授)
徳田 光弘 (九州工業大学准教授)
羽田野 隆士 (北九州商工会議所専務理事)

(敬称略・50音順)

1 開会

—市長挨拶—

2 議事

(1) 構成員紹介

—出席者が簡潔に自己紹介を実施—

(2) 国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略について

—「資料3」、「資料4」、「資料5」に基づいて事務局より説明—

(3) 北九州市の人口動態及び地方創生の取り組みについて

—「資料6-1」「資料6-2」に基づいて事務局より説明—

(4) 討議

岡田構成員

- 歴史的なものを残し、街の価値を上げて住みたくなるような街を作っていくことが重要である。
- 都心部の未利用地をうまく活用する施策が必要である。
- 都心部の良いところに土地を持っている、建物を持っているということを持ち主が自覚することが重要である。
- 新しい産業として、デザインやクリエイティブの分野の創出が求められる。
- 古い建物を活用して、高齢者も若者も多世代で街を楽しく創出できるような工夫が必要である。

籠田構成員

- 若者が北九州でどのような生活ができるかロールモデルが欲しい。
- 「北九州」や地域の名前をより多くの人を使うアプローチができないか。
- 中小企業は特に採用力や人材育成力はほとんどないので、企業側もダイバーシティを学ぶ必要がある。
- 北九州市の良さを知ってもらうにはマスコミの力も必要。北九州市の情報をマスコミにはもっとクローズアップしてもらいたい。

佐藤構成員

- 若い人達がワクワクする、北九州って面白いと思わせる必要がある。
- 商売をしているとお客さんの立場で物事を考えがちだが、働く側や学生の視点に立つことも必要である。
- 北九州市のものづくりと環境は前面に出しながら、それ以外の部分をどう持つかはしっかりと考えたほうがよい。
- 九州に戻りたいと思う人はいっぱいいるので、その人たちが望む仕事を民間に売り込んではどうか。
- 市や国で、セキュリティがしっかりしたビルを作れば、BCPと組み合わせ企業を呼び込めるものがあると思う。
- 高齢化が進むので、高齢者向けのサービスで仕事を作るという短絡的な発想ではなく、高齢者が若者にサービスするという発想が必要だと思う。
- 市の資産の再発見等ではなくイノベーション(創り生み出す)が必要となる。こうしたことは民間のみならず国や市がリーダーシップを発揮し、官民一体となって進めていく必要がある。

勢一構成員

- 客観的なデータに基づく現状分析は、今後の施策の進行管理という意味でも非常に重要である。
- 長期ビジョンを見据え当面は良さを活かす、伸ばすということを大切にしようが良い。
- 若者世代の考え、価値観をしっかりと反映させることが大切。それを踏まえてどのような北九州を目指すのかは、基礎となるビジョンとして据える必要がある。
- 国は法律で枠組みを決めるが、それ以外は地方で考える仕組みになっており、地方は地域独自のアイデアを盛り込んだ戦略を作っていくことが必要となる。
- 地方創生を進めていっても、これまでの施策などの継続性の視点は必要である。

徳田構成員

- 地方創生がトップダウン型（国依存型）になっていることが問題である。
- 都市経営の問題にメスを入れるなど、行政サービスの新しい構造改革が必要である。
- 「ひと・こと・もの・とき・かね」が北九州には眠っているので、この眠った資源を活用し、自活していく仕組みが必要である。
- 産業を高度化したり、つなぎあわせたりできる横断型の人材を育成し、北九州を自活させることが重要である。

羽田野構成員

- 特区の指定は本社機能の誘致などを図っていくための1つのツールであるので、他にも様々な施策を導入して取り組む必要がある。
- 東京一極集中について、北九州市内だけで捉えるのではなく、福岡県全体最適を考える必要があり、福岡市と北九州市の役割分担も考える必要がある。
- 高齢化社会で、商売で福岡市と競い合うことも大事だが、高齢者を活かしたサービスを構築し、若い人の就職の受け皿を作ることが必要である。
- 本社機能の誘致は、最初に答えありきではなく現状把握を十分に必要とする必要がある。
- 北九州市は環境面が非常に優れているので、環境を目玉にした研究開発部門の誘致はハードルが高いが、ぜひ成功してもらいたい。

事務局（大島氏欠席に伴い、大島氏より言付かった意見を代読）

- 北九州市外からの進学者が市内就職を希望しても、初任給が安く生活が困難なので実家に帰る傾向があるので、何らかの措置が必要である。
- 定住人口を増やすことはもちろん必要だが、交流人口を増やすことも大事である。
- 子育て、教育について対外的に明確にPRできる具体的なものが必要である。

以 上